

政所茶産地継続に向けた製茶技術者の育成 および茶園の生産性向上

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

奥永源寺地域は幻の銘茶として知られる「政所茶」の産地ですが、生産者の減少や高齢化により現在では栽培面積約 2.4ha、年間生産量 2.5t に留まっています。次世代の茶農家は 60 歳代以下が中心となっているものの、栽培・製茶技術が伝承されていません。特に、産地全体の加工を担う製茶技術者の後継者がおらず、問題となっていました。

そこで、2年前から製茶に取り組み始めた若手製茶技術者2名の育成を支援するとともに、次世代茶農家の栽培技術の向上に取り組むこととしました。

【普及活動の内容】

(1) 製茶技術者の育成

製茶は、茶葉の変化を五感で判断し適切に工程管理を行うことが必要です。そこで、茶業指導所と連携し事前に研修会を開催し、製茶感覚の醸成を図りました。また、現地では製茶トラブルに対応できるよう欠点茶審査法（製造された茶の欠点を審査する方法）の習得を支援しました。

一番茶の製茶時期を終えた後、反省会として製造された茶葉をオペレーター間で審査し今年度の製茶の振り返りを行うことで製茶技術向上の意識を高めました。

(2) 栽培技術支援

昨年度作成した栽培暦を基に整せん枝に関する研修会を行い、管理のポイントについて理解を促しました。一番茶後には整せん枝の実践を現地で支援しました。

【普及活動の成果】

活動の結果、若手製茶技術者2名が製茶機械の操作方法を習得し一連の製茶技術を身に付けられました。また、栽培面では若手生産者を中心に栽培技術が向上し、取組前の令和元年度当時は生葉の平均収量 209kg/10a でしたが、令和 4 年度には 261kg/10a にまで増収しました。今後も産地継続に向け支援していきます。



写真1 欠点茶審査



写真2 一番茶後反省会

◎対象者の意見

製茶技術については、事前の研修会や現地での支援で原理に基づく技術を分かりやすく教えてもらい、着実に上達できました。（製茶技術者）